こんにちは！ 事務局です

❖ 理事会報告

第４回 / 平成28年７月16日（土）

Ⅰ 協議事項

1．地区支部における高齢者および認知症支援のための看護職連携構築モデル事業
2．日本看護協会「訪問看護人材活用試行事業」について
3．第47回日本看護学会―看護教育―学術集会の運営について
4．専門看護師、認定看護師等認定制度と活用の現状と今後について
5．会員確保について
6．平成29年度予算編成に伴う要望について

Ⅱ 報告事項

1．重点事業進捗状況
2．会議等の報告

第５回 / 平成28年９月17日（土）

Ⅰ 報告事項

1．平成29年度予算編成等に関する要望について
2．日本看護協会第３回理事会について
3．第１回滋賀県医療審議会について
4．第47回日本看護学会「看護教育」学術集会について
5．平成28年度主要事業の進捗状況（４月～８月）
6．認定看護管理者特別委員会の進捗状況
7．日本看護協会会議報告
　1）ナースセンター事業担当者会議
　2）教育担当者会議
8．各職能委員会、地区支部活動等の報告
9．事務局長の退任及び雇用について

新会員情報管理体制「ナースシップ」について

継続申請書ご提出のお願い

会員の皆さまのお手元に**「新会員証」**と**「平成29年度会員継続申請書」**は届きましたでしょうか。
平成29年度から継続・入会手続きの方法が変更になっています。例年より早い時期の継続手続きとなりますが、皆様のご協力をお願いいたします。

会員の声

▶災害支援ナースの活動報告を読んで災害ナースに興味をもちました。(H.K)
▶災害支援ナースの活動報告に知っている方の名前があって嬉しかった。(N.K)
▶災害支援ナースとして業務に就かれた報告を読ませていただき、『看護師の基本は、対象となる人に寄り添い傾聴すること』だと改めて考えさせられました。(K.N)
▶災害支援ナースの重要性、被災地の大変な状況を改めて感じました。(Y.K)

編集後記

厳しかった暑い夏も終わり、すごしやすい季節となりました。
前回号での熊本地震災害支援ナースの活動報告では、他府県の看護協会の方からも好評の声を頂き、広報委員としてやりがいを感じました。これからもたくさんの人に見てもらえるよう、広報委員会一同がんばっていきたいと思います。(S.E)

プレゼントのお知らせ

プレゼント！

次回は投稿いただいた方の中から抽選で５名の方に、**『2017年版 日本看護協会 会員手帳』**をプレゼント。ふるってご応募ください。

羽毛クッションプレゼント 当選者発表！ Vol.131

投稿していただいた方の中から、厳正なる抽選の上４名の方に決定しました。
近江八幡市 K.Nさん、豊郷町 Y.Kさん、高島市 H.Kさん、高島市 N.Kさんです。
おめでとうございます。

この瞬間、輝くために

デオホワイル加工羽毛を採用したゴア®羽毛
ふとんでさらに清潔で安心の眠りを。

TUK 東洋羽毛東海販売株式会社
〒514-0003　三重県津市桜橋 3-67-13

三重営業所 フリーコール 0120-585104
～ お気軽にお問い合わせください ～

広報紙「ナースレーク」

Nurse Lake

Vol.132
2016年10月

公益社団法人 滋賀県看護協会

CONTENTS

第47回　日本看護学会 ―看護教育― 学術集会
「未来をひらく看護教育」…… 2～5
研修報告／広報委員会よりお知らせ…… 6
委員会活動報告（保健師職能委員会）…… 7
《NEW!》Voice ～これからの看護職に期待すること～ 7
はじめまして訪問看護支援センターです…… 8
医療安全通信…… 9
ナースセンターだより／はたさぼ通信……10・11
こんにちは！ 事務局です／会員の声／編集後記……12
プレゼントのお知らせ……12

会員手帳 プレゼント！

発　行　所●公益社団法人 滋賀県看護協会
発行責任者●会長 廣原惠子
〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目11番51号
TEL.077-564-6468　FAX.077-562-8998
http://shiga-kango.jp/
モバイルサイト
滋賀県看護協会　検索

滋賀県看護協会会員数（平成28年９月７日現在）

保健師/	320人	助 産 師/	249人	合計 8,042人
看護師/	7,238人	准看護師/	235人	

《第47回》日本看護学会 ―看護教育― 学術集会

湖国滋賀 から発信!「未来をひらく看護教育」

開 催 日：2016年8月4日（木）・5日（金）
会　　場：びわ湖大津プリンスホテル
参加者数：第1日（8/4）1652名・第2日（8/5）1520名

今回の学術集会には事前参加登録期間より早く締め切るほど多くの申し込みで、当日参加も250名を超え、延べ3303名の参加者数となりました。都道府県別参加数は表1に示しています。全国各地から一般発表も申し込んで頂き、口演87題、示説124題の211演題が発表されました。

メインテーマ「未来をひらく看護教育」に基づいた 坂本すが日本看護協会長の基調講演からスタートし、「変革する時代を担う次世代専門職を育てる」の池田清彦先生の特別講演、2つのシンポジウム、3つの交流集会を行いました。また、各職能が集えるようにミニレクチャーを企画し、各職能が集い活発なディスカッションが行われました。

企画、運営に際しては、これまで学会準備委員会を18回、抄録選考委員会を3回開催し検討を重ねて参りました。特に滋賀県で力を入れたかったことは、3職能が「看護教育」について考えられる場をもつこと。さらに『三方よし』の精神で時代に先駆けて「地域包括ケア」を実践してきた滋賀県から現在着目されている「地域包括ケアシステム時代」の人材育成について発信することでした。

このような思いで企画を進めてきた結果、参加者から「企画内容が豊富でよかった」とお声を頂き、多くの方に参加して頂ける学会となったと考えています。

なお、両日とも県内各地から91名の看護職の方に協力員としてお手伝いいただきました。参加者の方からもスタッフの対応が丁寧で気持ちのいい学会だったと好評でした。ご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。

（準備委員会 事務局）

《表1》

各都道府県別学術集会参加者数									
北海道	38	群馬県	27	新潟県	10	和歌山県	22	福岡県	69
青森県	5	埼玉県	79	富山県	23	広島県	56	佐賀県	3
岩手県	9	千葉県	53	石川県	35	岡山県	24	長崎県	13
宮城県	30	東京都	141	福井県	19	鳥取県	6	大分県	6
秋田県	14	神奈川県	77	三重県	43	島根県	8	宮崎県	13
山形県	6	山梨県	1	滋賀県	250	山口県	33	熊本県	6
福島県	7	長野県	22	京都府	96	徳島県	16	鹿児島県	23
茨城県	15	静岡県	30	大阪府	219	香川県	7	沖縄県	7
栃木県	14	岐阜県	61	兵庫県	107	愛媛県	8	計	1942

「ようこそ滋賀へ」を合い言葉に

学術集会 会長　石橋 美年子

2016年8月4・5日、猛暑・酷暑の中で、第47回日本看護学会―看護教育―学術集会は、全国から延べ約3300人の方々のご参加をいただき、琵琶湖湖面の壮大なさざ波の輝きとともに歓迎し開催しました。

開会式では、三日月大造知事様はじめ多くの来賓の方にご臨席賜り、滋賀県でこのような大きな看護教育学会開催を誇りに思う、「ようこそ滋賀へ」と歓迎の祝辞をいただき、坂本会長からは本学会への大きな期待を込めてご挨拶いただきました。

私も、学術集会会長として、メイン会場にあふれんばかりの参加者の皆様を迎え、心より「ようこそ滋賀へ」と申しあげ、感動の開会式に胸が熱くなりました。

基調講演で始まった坂本会長の講演は、まさに「未来をひらく看護教育」を語っていただき、特に特定行為看護師研修制度において、医師会長から意義、役割について質問があり坂本会長は、看護師は診療補助として「生活の視点」を本質としていると答えられ会場を沸かせました。

特別講演は、池田清彦先生の「変革する時代を担う次世代専門職を育てる」をテーマに、生物学者の視点で「現象は時間を孕むが、同一性は時間を孕まない」個々人は多様性を持った存在であり、この多様性を言語化し伝える技術の会得についてが論点であったと思います。多くの余談の中に人間の本質を追求する内容が盛り込まれたご講演でした。

シンポジウムでは「地域包括ケアシステム時代の人材育成」「看護師のクリニカルラダーを用いた看護実践能力育成の可能性」と今まさに、旬なテーマで、実践の場で動いている未来の看護の姿を感じました。

交流集会、ランチョンセミナー、ミニレクチャーは、保健師、助産師、看護師の三職種の役割を共有しそれぞれの看護教育について議論し考えを深められたと感じました。

口演、示説発表の内容は多彩であり、この研究発表を通して、現場の具体的実践が可視化でき、看護学となり、制度となり発展し、「未来をひらく看護教育」になっていくと感じました。

足かけ３年にわたり議論し、企画を工夫してきた成果が実を結んだ学会だったと感慨無量です。これまで、準備委員の皆様、学会協力員の皆様、日本看護協会、滋賀県看護協会担当者、事務局の皆様、関係者の皆様に心より感謝申しあげます。誠にありがとうございました。

＊　＊　＊

基調講演

8月4日（木）10:30〜11:30／第1会場

「未来をひらく看護教育」

●講師：坂本　すが
［日本看護協会 会長］

●座長：石橋 美年子
［滋賀県看護協会 学術集会 会長］

看護職に求められている「チーム力の強化」「看護職の役割拡大」「在宅ケアの質向上と人材確保」「看護職の能力開発」の４つの柱と関連づけて講演いただきました。

学ぶ者は教える者の所作を見て、覚え、学び、考え、能力を身につけていく。そのため、教える者は自分の仕事に誇りを持ち、教育の中で学ぶ者の心を動かし夢を与えることが大切であることを伝えられました。

看護教育において、学ぶ者が自ら考え創造する力、考えを伝えチームで協働する力、行動する力を養い、さまざまな問題に対して解決能力を発揮できる、未来を切り開いていく看護専門職の育成を学びました。

（広報委員・Y）

特別講演

8月4日（木）13:00〜14:30／第1会場

「変革する時代を担う次世代専門職を育てる」

●講師：池田 清彦［早稲田大学 国際教養学部 教授］
●座長：望月 紀子［京都橘大学 看護学部 教授］

講師は、専門の生物学分野のみならず、科学哲学、環境問題、生き方理論など幅広い分野に関する著書を多数持ち、新聞や雑誌、テレビなどでも活躍されています。

講演では、独自の視点から個々人の病気は現象であり、病気に病名があるわけではないとの言葉が印象的でした。病名を決めることで標準的な治療法が最適な治療法であると錯認してしまうとの話をされていました。標準的な治療が効果ある患者もいれば、上手くいかない患者もいる。個々の患者の病態や心理状態によって対症は変わってくる。その中で、経験豊富な看護師や医師は個々の対象に合わせ対症を変えており、標準的じゃない治療の方が効果的なこともある。その経験が“知”となり、どのように共有していくか?が大事だと話されていました。言語化できない技術は“見せる技術”が必要であるとのことでした。また、今後（未来）の医療はIT化され、ロボットが安全に治療をする時代になると話されていました。ロボットが診断・治療できても、“ケア”は医師や看護師が重要になる、求められるのはコミュニケーション能力が必要であると話されていました。

また、先生はテレビに多数出演されていることもあり大変貴重な話も多く、会場は笑い声のたえない講演となりました。

（広報委員・S）

シンポジウムⅠ	**『地域包括ケアシステム時代の人材育成』** **講師**／輿水めぐみ［滋賀医科大学 医学部看護学科 講師］ 埜田　和史［滋賀医科大学 社会医学講座衛生学部門 准教授、地域「里親」学生支援室 室長］ 椎名美恵子［訪問看護ステーションみけ 所長］ **座長**／勝又　浜子［日本看護協会 常任理事］
シンポジウムⅡ	**『看護師のクリニカルラダー(日本看護協会版)を用いた看護実践能力育成の可能性』** **講師**／高橋　弘枝［大阪府看護協会 会長］ 九里美和子［社会福祉法人恩賜財団済生会 滋賀県支部、滋賀県済生会 地域ケアセンター 前センター長］ 渋谷　美香［日本看護協会 教育研究部 部長］ **座長**／藤野みつ子［熊本保健科学大学 看護学科 教授］
交流集会Ⅰ	**『育てる側・育てられる側の双方向からの臨地実習を考える』** **講師**／白坂　真紀［滋賀医科大学 医学部看護学科 臨床看護学講座（小児）学内 講師］ 亀澤　映美［大津赤十字病院 看護部 教育師長］ 常塚　友紀［国家公務員共済組合連合会 舞鶴共済病院 看護部 副主任］ **座長**／小山　敦代［聖泉大学 副学長・看護学部 教授］
交流集会Ⅱ	**『今まさに求められる医療安全教育 ～基礎教育から特定行為研修まで～』** **講師**／手島　恵［千葉大学大学院 看護学研究科 教授］ 塚本　容子［北海道医療大学大学院看護福祉学研究科 教授］ 伊波　早苗［社会福祉法人誠光会草津総合病院 副看護部長、専門看護実践室室長、慢性疾患看護専門看護師］ **座長**／手島　恵［千葉大学大学院 看護学研究科 教授］
交流集会Ⅲ	**『新卒から育てる訪問看護師』** **講師**／益田　恵子［大阪滋慶学園 大阪保健福祉専門学校 看護学科 学科長］ 並木奈緒美［山梨県看護協会 ゆうき訪問看護ステーション 所長］ 前田　和哉［ケアプロ株式会社 在宅医療事業部 部長］ **座長**／沼田　美幸［日本看護協会 医療政策部 部長］
助産師ミニレクチャー	**『"CLoCMiP（クロックミップ）"助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証制度スタートから1年経過して ―課題と今後の発展に向けて―』** **講師**／高田　昌代［神戸市看護大学 教授］ **座長**／木村　知子［聖泉大学 教授］
保健師ミニレクチャー	**『地域包括ケアの推進に向けた保健師現任教育』** **講師**／大林　豊子［滋賀県健康福祉部 保健師活動アドバイザー］ **座長**／福井美代子［滋賀県健康医療福祉部 健康医療課 課長補佐］
ランチョンセミナーⅠ	**『健康づくりに役立つ良質睡眠のとり方』** **講師**／田森　雄治［東洋羽毛工業株式会社 営業開発部 課長、日本睡眠教育機構認定睡眠健康指導士］ **座長**／菅原　修［東洋羽毛工業株式会社 三重県営業所 所長］
ランチョンセミナーⅡ	**『医療安全業務の全体像を把握する ～足りない部分を知るために～』** **講師**／長尾　能雅［名古屋大学医学部付属病院 副病院長、医療の質・安全管理部 教授］ **座長**／一山　智［京都大学医学部付属病院 検査部・感染制御部 教授］

廣原 恵子／滋賀看護協会 会長

看護教育学術集会には、全国各地から延べ3303名の参加があり、参加された方から、会場や企画内容、協力員等の対応に好評価を頂き、盛会に終了できたことに感謝申し上げます。

最初の日本看護協会坂本すが会長の基調講演：テーマ「未来をひらく看護教育」では、「教育とは、夢を与えること・心を動かすことであり、看護職が様々な場で専門職として役割を発揮していくためには、専門的な能力の確保と自ら考え創造する力・考えを他者に伝え、チームと協働する力・行動する力を身につけた自律した看護職が不可欠」と強調されました。その後のシンポジウムでは、「地域包括ケアシステム時代の人材育成」「看護師のクリニカルラダーを用いた看護実践力育成の可能性」、交流集会では「今まさに求められる医療安全教育～基礎教育から特定行為研修まで～」「新卒から育てる訪問看護師」等、タイムリーなテーマでの企画がありました。発表演題は、多岐に渡り、基礎教育内容や評価、実習指導、新人教育やキャリア支援、多職種連携教育、医療安全教育等口演発表87題、示説発表124題合わせて211題の発表がありました。メインテーマにふさわしく、これからの未来を拓く看護教育を多方面から考えられ、学びの多い充実した2日間でした。これらの学びを自律した看護専門職として活躍できるように、自己教育や後輩教育に活かしていきたいと強く思った学会でした。

又、セレモニーでは、琵琶湖の優しく心に響くよし笛の音色と共に、スライドで四季折々の自然や心豊かな湖国滋賀を発信することも出来、参加者の皆様からは、癒され穏やかな気持ちになれたとの声も頂きました。

最後に、紙面をお借りしまして、3年に渡り準備して来られた委員の皆様、発表者や参加された皆様、協力員の皆様のご協力に深く感謝いたします。

❀ ❀ ❀

力石 泉／準備委員（第1会場担当）

準備委員として第1会場を担当させていただいて立場の違う委員同士で、テーマ・企画・ポスター等を考える上での意見交換は、とても楽しく新鮮でした。時間の経過とともに、当日のイメージも少しずつ描けるようになり、自分自身の役割も明確となっていきました。

第1会場担当の私は、協力員の方々と共に、参加者全員に満足していただけることを目標に当日を迎えました。私は、安心してすべてを協力員の方にお任せし、進行役に専念しました。講師の先生方の講演前の緊張感、講演後の安堵感をひしひしと感じ、参加者の反応を見渡せるという初めての体験をさせていただきました。私は、看護職者の学ぶという真摯な態度にひたすら感動していました。と同時に、その学びが教育や看護の現場でどう具現化されるのか、学生や患者にどう還元されていくのかを見たいと思いました。私自身、講師の先生の話を間近で十分に聞くことができ、多くの学びを得ることができました。現場で、検討したいことやシステムを考えたいことも見えてきました。

学会に参加された方々が、未来につながるお土産を持ち帰っていただくことができたかなと思いながら、充実した2日間を終えました。滋賀県看護協会の方々、準備委員の仲間の方々、そして協力員のみなさん本当にありがとうございました。

❀ ❀ ❀

堤 国夫／準備委員（第2会場担当）

第2会場では6群30題の研究発表が行われました。また、2つのランチョンセミナーも開催されました。すべて日中の暑さに負けないくらい熱く活発な意見交換がありました。特に口演発表では会場に入りきれず、外にはみ出すほどの参加者がそれぞれの発表に聞き入り、また、活発な質疑応答がなされました。

「おもてなしの心で迎えましょう」という思いを大切に、学会に携わるすべての人がいい気分で過ごすことができるように第2会場の協力員の方々にもお願いしました。

今までは参加者の立場だけの学会への参加でしたが、今後はより広い視点で参加できると思います。

学会の企画・運営という慣れないことでご迷惑をおかけしたこともあると思います。参加していただいた皆様、発表された方々、座長を務めてくださった方々、協力委員の方々、すべての学会運営を支えてくださった多くの方々に感謝申し上げます。

❀ ❀ ❀

山田 みか／準備委員（第6会場担当）

笑顔で一言「ようこそ滋賀へ」を合言葉に臨んだ2日間、私は示設発表会場を担当しました。発表者と参加者の両方が「参加してよかった」と思えるような発表にしたいと思い、協力員の方々と協力して会場運営に取り組みました。会場内は発表者と参加者の質疑応答を通して情報や意見の交換が盛んに行われ、とても活気のある雰囲気となりました。また、抄録を片手にポスターを食い入るように見る人、ポスターを見ながら仲間同士で話し込む人達など、それぞれが自分なりの方法で学びを深められていました。退室時には「ありがとう」と声をかけてくださる方もおられ、会場運営が円滑にできたことに安堵しました。

私は今回初めて準備委員として学会開催に携わりました。当初は「準備委員としてどんなことをすればよいのか」と不安もありましたが、方向性の検討から始めテーマの決定、企画内容の決定、運営マニュアル作成へと討議を重ねる中で、最初は漠然としていた学会のイメージが具体化していく過程を経験し、委員としての役割や活動を理解することができました。委員としての役割遂行においては多くの自己課題が残りましたが、今後はこの経験を活かして日本看護学会の発展に協力していければと思います。

研修報告

レベルⅠ

新人研修 ～看護職として組織人としての意識の確立～

●日時：平成28年７月14日・15日・19日・20日　●場所：滋賀県看護研修センター

４日間の研修では、滋賀県で働く新人看護師647名中、延べ510名の参加がありました。

はじめに、廣原滋賀県看護協会会長より、会長自身の看護師になったきっかけや忘れられない看護エピソード、専門職としての姿勢、今後の看護職に求められることを講義して頂きました。受講生達は、真剣なまなざしで会長のお話を聴き入っていました。

滋賀医科大学医学部附属病院看護臨床教育センター長 多川晴美先生より、組織や専門職について、社会人としての基礎力についての講義をして頂きました。また、グループワークでは、辛かったことや嬉しかったことなどを意見交換することで、新人看護師同志だからこその悩みや思いを共有できました。受講生からも「同じ悩みを持っているとわかってよかった」「グループワークが楽しかった」と他施設の仲間との意見交換をすることでストレス発散の場ともなりました。最後には、自分の目指す看護師について語りあうことで、自己の課題を発見できる場ともなりました。

そして、多川先生から、一人ひとりにメッセージカードが配られました。一年後の自分宛てへのメッセージを書くことで、明日からの看護の道をすすむ糧となりました。

広報委員会よりお知らせ

ナースレークがリニューアルして２年。地区支部の活動や委員会の活動もわかり、構成についても好評を得ています。

さらに今号から、新企画「Voice～これからの看護職に期待すること～」を始動。地域連携や他職種連携の中で、患者様、利用者様や他職種の方々が看護職に期待する声を掲載させていただきますので乞うご期待を！

投稿大募集

募集内容
- ●「表紙の写真（滋賀県の風景や風物詩）」
- ●「一番星☆見つけた！（輝いている人）」
- ●「会員の声（ご意見・ご感想）」

etc...

滋賀県看護協会　検索　をクリック！「委員会からのお知らせ」へGO!

委員会活動報告

保健師職能委員会

保健師職能委員長　黒橋 真奈美

保健師職能委員会では、「地域における保健師の保健活動に関する指針」（平成25年４月14日 健発0419第１号健康局長通知）および「滋賀県保健師活動指針」をもとに「地域に責任の持てる保健師活動」を目指して活動に取り組んでいます。

そのため、今年度の保健師職能委員会では、新任期研修の開催、移行期研修会（教育部共同開催）、中堅コンサルテーション研修開催支援等、現任教育支援を行うと共に、統括保健師がその役割を果たせるよう、統括保健師会議の開催等を行うこととしています。

さらに、保健師職能集会では、今年度示された「自治体保健師の標準的なキャリアラダー」および「キャリアパス」の作成をテーマに取り上げ、専門能力の育成について自分たちの問題として所属を超えて話し合うこととしています。

写真は７月11日に開催した新任期研修の様子です。受講生からは「チャレンジする勇気が大切とわかった」「他市町の保健師と知り合えて良かった」との声がありました。

一人ひとりの力は小さいけれど、保健師活動の悩みや、思い等、保健師が力を合わせれば、大きな力になります。看護協会会員になることは、こうした大きな力に加わることでもあります。研修や集会へのあなたの参加をお待ちしています。

Voice　これからの看護職に期待すること

『 安心と希望のために 』

― 患者の家族の立場より ―

髙野　裕子 様

●平成28年度「第6回日本看護協会 忘れられない看護エピソード」一般部門 最優秀賞受賞
●入院患者と家族のためのサポート施設『Believe House』設立準備室 代表

「再発を告げられ、目を真っ赤にして診察室を出た私の手を、何も言わずぎゅっと握ってくれたこと」――これは、私が以前に主催していた患者と家族の会での「医療者の言動で嬉しかったこと」というアンケートに寄せられた回答の一つです。その方は闘病のあいだもそのことに何度も触れ「すべてに見捨てられたような絶望と不安の中で、その瞬間は唯一見捨てずに自分をつないでくれた一筋の光だった」と伝えてくれました。

看護師さんの忙しさは、外来でも病棟でも、病院で長く時間を過ごせば過ごすほどひしひしと感じます。でも、できることならぜひ、その忙しい毎日の中でそれぞれの患者さんを気遣ってくださっているその思いをできるだけ相手に伝えてくださいませんか。看護師さんが私たちに見せてくれる温かさや気遣いは、患者や家族にとってすごく強力な元気の源です。「この気持ちに寄り添ってくれている」そう感じられると、私たちの心の中にホッと安心が生まれます。そしてそれが信頼と闘病への勇気に変わり、たとえどんなどん底の中でも明日を迎えるための小さな勇気や希望になり得るのです。

どうかこれからも、たくさんの安心と希望が医療の現場に生まれてきますように…。

※前列右から二人目が髙野さん

はじめまして

訪問看護支援センターです

「訪問看護OneDay体験」を開催しました

訪問看護を体験しその魅力を伝えることをめざして、県内10ヶ所の訪問看護ステーションにご協力いただき、訪問看護インターンシップ事業「訪問看護OneDay体験」を、７月下旬から８月にかけて開催しました。看護を学ぶ31名の学生さんが参加され、各訪問看護ステーションで訪問看護や１日のスケジュールなどの説明を受けた後、訪問看護師と一緒に、在宅で療養生活をされている方の訪問看護を体験しました。

訪問看護体験後の振り返りや、看護学生さんからいただいたコメント

挨拶しているときから、足のマッサージをしながら、情報収集していた。動きに無駄がなかった。また、前回訪問以降のことは、患者手帳を見て情報収集していた。

訪問看護ってなんとなくでしか想像できなかったけど、実際どんなことをしているのか分かって良かったです。

記録を見せてもらった。家族がこうなってほしい、患者はこう思っているなどが記載されていた。1つ1つ考えて看護を提供している。

同行訪問できるのかな?と思いながら参加し、実際に訪問したことで利用者さんとの距離が近く、その分コミュニケーションが大事であることがわかった。

利用者さんの疾患だけでなく、療養環境や経済状況、家族の関わりなど、利用者さんとご家族の生活全部と向き合う必要があり、「本当の看護」は利用者さんの生活の場にあるのだということを実感できた体験でした。

「病棟だとケアをしている途中でナースコールが鳴ることが多く、ゆっくり一人の患者さんに向き合う時間をとりにくいが、訪問看護はその時間は、その利用者さんとその家族をしっかり丁寧にケアすることができるよ」と訪問看護の魅力を教わりました。

今回利用者さんの生活の場を訪問させていただいたことで、入院患者さんの入院前の生活・退院後の生活を思い描くことの重要さが見学を通してより実感できたと思います。

利用者さんに、限られた時間の中、そして支払ってもらう料金に合ったケアを過不足なく行う重要性を学びました。訪問するまでに下準備をしっかり行うことが、ケアを円滑に進められ、それが利用者さんの満足度を高めることになると感じました。

在宅では、利用者さんがリラックスして生き生きされていた。

これからは、病院で治療をするのではなく自宅で家族に囲まれながら療養することがあたりまえになる時代であると知り、在宅看護がこれからどんどん広がっていけるように自分もいずれは在宅看護の道に進めるように勉強、実習を頑張りたいです。

訪問看護ステーションからのコメント

在宅看護論の実習の前に訪問看護OneDay体験をしておくと、いざ実習になったときの心構えはちがってくると思います。

訪問看護で人との対応、コミュニケーション、連携を学んだ後に、病院で働いたりと、いろいろな選択肢があります。患者さんが生活する場所は家。ベースを知っておくと、退院支援で活かせます。

訪問看護は自分の姿勢を直に評価され、自分磨きにもなる仕事です。

実習とは違い、学生さんは緊張が少なく和やかに自分の意見を話していたように感じました。

これからの病院実習で今回の経験を生かして、どうしたら在宅で暮らせるのか、在宅での生活を見据えた考え方をもって勉強してください。

医療安全相談窓口をご活用下さい!

滋賀県看護協会では平成20年頃より医療安全相談窓口を設け、会員の皆様の支援ができるよう取り組んでいます。しかし数件の利用にとどまっており、さらに活用していただくために今回医療安全相談窓口の内容についてお知らせします。

ねらい

複雑・多様化する医療の現場で、看護職は医療の受け手である方々の安全を守る一方、加害者にならないための対策を構築する必要があり、具体的な情報提供・助言を通じて医療安全の推進をめざしています。したがって、医療事故が生じた場合の対応および看護職の支援をすることを目的として、相談窓口を設置しています。

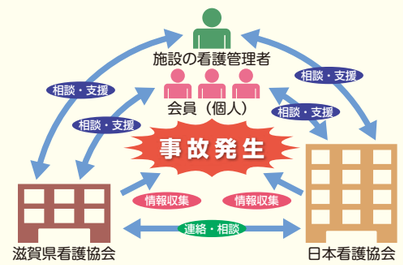
相談内容

❶医療安全に関する相談・苦情への対応
❷医療事故に関する相談・苦情への対応
❸医療事故が発生した施設（看護部長・当事者等）への支援
❹医療安全対策に関する情報提供
❺相談内容等における課題整理と医療安全推進のための対策支援
【例】○転倒による骨折、患者・家族への対応
○医療安全対策についてのマニュアルの作成や情報提供など
○医療安全研修の内容や、講師の紹介など

本年度の医療安全週間は11/20～11/26です。
医療安全週間のポスターをHPに掲載する予定です（11月頃掲載予定）

医療安全相談窓口

- ●受付時間：９時30分～16時（平日のみ）
- ●場　　所：滋賀県看護研修センター
- ●連 絡 先：TEL.077-564-6468 / FAX.077-562-8998
- ●対 象 者：県内在住看護職（会員・非会員を問いません）
- ●担　　当：看護協会長・常務理事・医療安全推進委員（適宜）
- ●方　　法：電話相談・来訪相談・FAX相談



ナースセンターだより

お知らせ

男性看護師研修会

テーマ 男性がいきいきと働ける職場つくりとは
～専門職、組織の一員、ライフステージ、それぞれの視点から考える～

ねらい 滋賀県下の男性看護職員が一同に集まり、研修・交流を通して専門職として働きつづけられるための今後を考えるきっかけつくりをすることができる。

日　程 平成28年12月16日（金）９:20 ～ 16:30（詳細はホームページ、案内参照）

内　容 看護職の取り巻く状況、組織の中での看護職、育児・介護休業法の改正について等講義後の演習を交えながら、交流も図ります。

午前中は、看護管理者も対象とした公開講座をします。

看護職員就職説明会

７月24日（日）滋賀県立文化産業交流会館にて、看護職員就職説明会を行いました。求人は51施設、求職者は学生40名、一般22名で計62名の参加がありました。

学生は、友達と一緒に各施設のブースに回って話を聞いたり、個別で行って情報を交換したりする姿が見られました。一般の方は、お子さん連れでいらして託児（無料）を利用しながら施設の話を聞いておられる方もいました。

これからも安心のお仕事探し、ナース探しをしていきたいと思います。

H29年２月には、ハローワークと合同でクサツエストピアホテルにて就職説明会が開催されます。詳細はホームページをご覧ください。

ナースセンターに登録してください

『 eナースセンター 』

お仕事をお探しの看護職・看護学生の方、看護職をお探しの求人施設の方の登録をお待ちしております

「eナースセンター」トップ画面
https://www.nurse-center.net/nccs/

『 とどけるん 』

退職された看護職の方の届出登録はこちらから

「とどけるん」トップ画面
https://todokerun-nc.nurse-center.net/todokerun/

今年度も こころのサポートしています

先生方がどんな相談でも待っておられます。
まずはお電話でご予約下さい。

♥滋賀県ナースセンター（滋賀県看護協会内）

第１・２・４木曜日 ／ ９:30～12:30 または 13:00～16:00

平成28年10月６・13・27日、11月10・24日、12月１・８・22日
平成29年１月５・12・26日、２月２・９・23日、３月２・９日

♥彦根サテライト（くすのきセンター3F）

第３火曜日 ／ 13:00～16:00

平成28年10月18日、11月15日、12月20日
平成29年１月17日、２月21日、３月21日

相談希望の方はナースセンターへお電話ください

お問合せ先

滋賀県ナースセンター

Tel.077-564-9494（彦根サテライト Tel.0749-30-1235）
E-mail: nurse-center@shiga-kango.jp
★詳細はホームページをご覧ください。【 http://shiga-kango.jp/ 】

SHIGA! はたさぽ通信

就業コーディネーター｜松波 典代

ナースセンターは、看護専門職のあなたを応援しています。

秋風が吹く季節、みなさんはどのように過ごされていますか？スポーツの秋・行楽の秋、そして何といっても食欲の秋ですね。でも、体重の変化に注意し健康管理をしましょう。

さて、今年も訪問看護ステーション・介護福祉施設への再就職をめざす方にお勧めの研修、復職支援「リスタートナースサポート研修」６日間と施設実習３日間を開催しています。

今年度第１回は５月下旬から開催し、再就業をめざす方、子育て中の方など17名が受講されました。研修内容について受講者の評価は高く、各講師の講義は大変好評でした。また、各施設にお世話になった実習では多くの学びをされました。

研修後に開催した受講者交流会では、お互いの思いを共有でき再就業に向け楽しい時間となったようです。研修を終え、多くの方が就職されています。今は、第２回の研修期間中で施設実習に参加されています。２月に第３回を予定しています。在宅医療福祉についての基礎知識や技術を習得し研修終了後には看護専門職としての自信を持ち新たな職場で力を発揮されることを願っています。

・　・　・

滋賀県ナースセンター・彦根サテライト・各出張相談窓口は、あなたに合った職場探しをサポートします。是非、ご活用ください。

採血実技にドキドキ!

久しぶりの講義で緊張